

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
知覚・認知心理学	HSP11-006	選択	2	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
須永 範明	講師控室	講師控室	随時メールで質問等受付		
授業の目的・概要	<p><目的>知覚と認知という人間の情報処理過程に関する知識を習得し、日常の行動を説明できるようになることが目的である。</p> <p><概要>この文章を読んでいる最中にも、視覚、記憶、思考といった様々な心理的機能が働いている。本講義では、知覚心理学と認知心理学に関する諸事項を概説し、日々当たり前に行っていることが、どのような心理的プロセスから成り立っているかを解説する。また、これら心理的機能の障害についても説明する。なお、Microsoft Teams を用いた同時双方向型授業（オンライン授業）を行なう。</p>				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業内小テスト)				
学習上の助言	事前に教科書と配布資料で予習した上で授業に参加していただきたい。授業内で実施する小テストは 3 回まで解答できる。理解が及ばなかった問題を再学習して再度小テストに取り組んでいただきたい。				
教科書	基礎から学ぶ認知心理学／著：服部雅史、小島治幸、北神慎司／有斐閣／2015 年				
参考書	授業時に適宜紹介する。				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	感覚・知覚の基本的事柄を説明することができる。			HC(2)、(3)、(5)	
②	記憶のしくみと基本的な特徴を説明できる。			HC(2)、(3)、(5)	
③	認知・思考について基本的な特徴を説明できる。			HC(2)、(3)、(5)	
④	知覚・認知の障がいについていくつか説明できる。			HC(2)、(3)、(5)	
⑤					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーションを行なう。続いて、知覚と認知とは何か学ぶ。	同時双方向型授業	シラバスと教科書の該当頁、配布資料を熟読し理解する。	3	
2	感覚の種類と一般的特徴について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
3	感覚の仕組みについて、視覚を中心に学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
4	知覚のしくみと機能、特徴について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
5	注意の働きについて学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
6	記憶の種類について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
7	記憶方略、記憶の忘却、日常の記憶について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
8	目撃者の記憶について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
9	概念と知識について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
10	スキーマとメタ認知について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
11	問題解決のための思考および推論の歪みについて学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
12	確率の判断を中心に意思決定について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
13	意思決定に関わる効用の評価、リスクのある判断、文脈の効果について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
14	潜在認知について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	4	
15	授業全体を総括する。	同時双方向型授業	教科書の該当頁と配布資料を熟読し、小テストに取り組む。	5	

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照。							
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		50	0	0	0	50	100	
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	30	70	
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	10	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	講義内容の理解度について学期末に定期試験を実施し評価する。授業の全範囲から出題する。知覚・認知心理学の専門用語を正しく理解しておく必要がある。専門用語を用いて日常の知覚・認知に関わる現象を説明できるようにしておく必要がある。				Microsoft Teams を利用して個別にフィードバックを行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	毎回の授業で小テストを実施する。小テストは解答期限前であれば3回まで解答を提出でき、最も高い得点が個人の得点となる。一人一人の理解の程度を自己確認するとともに、理解の不十分な箇所を見つけ再学習することで理解を深めるために行なう。				Microsoft Teams 上で小テストを実施する。解答は即座に採点され、得点および各設問の正誤がフィードバックされる。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教員の実務経験	なし							
実践的授業の内容	該当せず							
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ● 本科目は公認心理師試験の指定科目「知覚・認知心理学」に対応した科目である。 ● Microsoft Teams を用いた同時双方向型授業（オンライン授業）を行なう。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。 ● 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢に応じてシラバスが変更されることがある。 							